１１/６　記者会見

１．内容（資料説明）

①見附市 子育て 教育の日

平成 25 年から制定した「見附市 子育て 教育の日」は、大人が総がかりで子供の育ちに関わろうという機運を盛り上げて、様々な取り組みをこれまでも行ってきた。コロナ禍もあり、様々に形を変えて進めているところ。今年度については、市内小中特別支援学校が特色を生かして本格的に進めている「みつけ Job チャレ教育」を始めとして、各学校での取り組みの発表等について授業公開などを行う。また、同じく Job チャレ教育の一環で今年度 2 回目の開催となる「みつけこどもビジネスアイディアコンテスト」の表彰式も同日 11/16（日）に行う予定。詳しくは報道資料１ページ目下部のとおり。詳細日程は、11/7（金）に見附市教育委員会のホームページに掲載予定。

みつけ Job チャレ教育の概要と主な取り組みについては、別紙 1 を配布した。Job チャレ教育は、チャレンジする意欲を育成するために、起業家精神あるいは起業家的資質・能力を養うことを目的として、近年見附市が本格的に推進している事業。主な取り組みとして（１）みつけ Job チャレ図鑑ということで、学校と事業者をマッチングするデータベースの登録が、すでに 51 事業者となった。市内の事業者からも大変好評で、「ぜひこども達のためにいろいろな取り組みをしたい」「講義などを行いたい」と意欲を持って取り組んでいただいている。（２）みつけこどもビジネスアイディアコンテストは、また後ほど紹介する。（３）各学校の主な取り組みは、別紙 2 に記載した。各学校それぞれ特色を持って Job チャレ教育に取り組んでおり、統一的な内容ではないが、起業家精神や資質・能力を養う取り組みをそれぞれの創意工夫でもって実施してもらっている。その中で、今回「見附市 子育て 教育の日」の 11 月 16 日に取り組みの発表があるので、ぜひ取材いただきたい。発表の詳細は、学校教育課長へ問い合わせていただければ、ご案内する。

報道資料に戻り、（２）みつけこどもビジネスアイディアコンテストについて。昨年はニラをテーマにしたが、今年は私から「新潟県のどまんなかである見附市をアピールしたい」という相談を子供たちが受けたという想定で、アピール方法のアイディアを募集し、689 点の応募があった。表彰式は 11/16（日）午後 4 時に市役所大会議室で行う予定。昨年に続き、新潟大学経済科学部の伊藤准教授からご指導いただきながら、このアイディアコンテストを含む Job チャレ教育に取り組ませていただいているところ。

「子育て 教育の日」に関しては、今月 1 日から 1 ヶ月間「スクールアカウンタビリティ in みつけ 2025」を実施している。今までは会場に集まって説明していた時期もあったが、現在は動画で、各学校の特色ある取り組み、あるいは教育委員会の取り組みを紹介している。

②指定管理候補者の選定結果

収益を得られる「見附方式」で運営しているパティオにいがた、みつけイングリッシュガーデン

飲食物品販売施設（メグカフェ）、見附市コミュニティ銭湯（ほっとぴあ）については、指定管理期間 5 年間の契約が終了して来年 4 月から新しい契約になる。髙橋 CSO にも参画してもらい、契約方式の見直し、検討を行った結果、以前の説明のとおりパティオにいがたとメグカフェについては「収入歩合方式」に変更させていただいた。今回公募を行ったところ、パティオにいがたには、現在の指定管理者である豊栄わくわく広場、マルイ・きらく共同事業体の 2 事業体から手を挙げていただき、審査の結果、マルイ・きらく共同事業体が指定管理候補者として選定された。メグカフェについては、現在の指定管理者である FFFFFFun（ファン）株式会社のみが手を挙げ、審査により指定管理候補者として選定されたところ。

見附市文化ホールも指定管理期間が更新となり、こちらは特に契約の大きな見直しはせずに公募を行い、今までどおりアルカディア事業体が手挙げし、審査により指定管理候補者になった。

そして、見直しをしたかったができなかったほっとぴあについては、株式会社本久に現契約のまま 1 年間延長することをご了承いただく形で、指定管理者選定等委員会において審査いただいた。

ほっとぴあ以外については、公開プレゼンテーションと質疑応答を実施し、指定管理者選定等委員会で審査を行った結果、指定管理候補者に選定されたもの。ただし、どれもまだ候補者であり、12 月議会で指定管理者の指定の議決をいただければ、1 月から 3 月にしっかりと業務の引き継ぎをしてもらい、4 月より締結した協定書にもとづいて業務を開始してもらう、という流れで準備を進めていきたい。マルイ、きらくと、非常に人気の高いところにも運営をしていただける。4 月からまたしっかりと始められるように、髙橋 CSO にも関わってもらいながら、引き継ぎなど準備を進めていきたいと考えている。

③第 6 次総合計画策定に向けた策定状況

平成 28 年度から令和 7 年度までを計画期間とした第 5 次総合計画に基づいて政策運営を進めてきた。現在、令和 8 年度からの第 6 次総合計画の策定作業を進めており、これまでの審議会の議論や、私自身も参加した「未来を語るふれあい懇談会」でいただいた意見を踏まえて、市役所の中でしっかりと議論して素案を取りまとめた。おとといい 11/4（火）に開催したまちづくり総合審議会でも、説明をさせていただいたところ。今後の審議で中身が変わってくる可能性もあるが、現在の素案がどのような内容になっているか、この場でお知らせする。

計画体系案は報道資料に記載したとおり。より詳しくは、別紙に第 6 次見附市総合計画の策定状況についてまとめた。素案の全編は、11/4（火）の審議会資料として市ホームページに掲載済み。別紙 1 ページ目下部「③計画の構成と期間」の中で、基本理念の素案を「魅力たっぷり　未来につなげる　みんなのみつけ」とさせていただいた。見附にはたくさんの魅力があり、魅力をより輝かせる未来につなげていきたい。そして、まちづくりの主役はこどもも高齢者も含めたすべての市民だという思い、それから、新たな魅力の創出に取り組んで次の世代にも誇れるまちを築いていきたい、そんな思いを込めた基本理念になっている。

続いて、2 ページ目「みつけの将来像」の素案を「笑顔あふれる暮らし満足 No.1　ひとつにつな

がるコンパクトシティ」とさせていただいた。私自身、まちづくりの究極の目標として「暮らし満足No.1のまち」を目指すとこれまでも述べさせていただいており、ここでもそのフレーズを使っている。魅力的な施設やサービスを集約し、どこに住んでいても行き来しやすくて、誰もが利用しやすい環境を整えていくという思い。合わせて、コンパクトシティを活かした地域同士の繋がりや一体感、世代を超えた支え合い、企業・団体の連携など、まちの多様な主体が一つに繋がるということが大事なのではないか、一体感と協働の輪を広げていけないか、という思いや願いも込めて、このような将来像を掲げた。

「⑤見附市の人口の見通し」は、見附市人口ビジョンの改定案。緑の線が社人研の推計値であり、市は赤と青の2本の線で二つのシナリオを用意している。シナリオ1は非常にチャレンジングな目標だが、出生率2.07という高い目標を掲げたもの。シナリオ2はその中間値のもの。総合計画上での目標としては、基本的にシナリオ1の達成に向けて取り組んでいく。これは、国や県がしっかりと少子化対策を推進し、市と連携して取り組むことが前提であり、様々な投資などで過大にならないように、中間であるシナリオ2も、あえて設定させていただいた。

次の3ページ目では、各シナリオで自然動態、社会動態の目標を掲載した。続いて、（2）では施策ごとのとりまとめとともに、4つの視点という、いわゆる横串を刺したような、政策の柱になるものを設けた。1つ目の「現役・次世代を取り込む魅力の創造・発信」は、人口減少する中で、若者や子育て世代に選ばれるまちであり続けること、そのための魅力の創造や発信というものを1つ目の視点に掲げさせていただいた。2つ目は次ページの「市民の誰一人取り残さない」であり、これは年齢や世代あるいは障がいといったものに関わらず、誰もが安心して暮らせるまちを目指していきたい、ということで掲げている。3つ目は「健やかで幸せな暮らしを支える環境・仕組みづくり」で、これまでの総合計画では一番上位に掲げていたところだが、その考えをしっかりと今後も生かしていこうという思い。「スマートウエルネス」の理念の継承あるいは「ウォーカブルシティ」の考え方などをこれからも引き継いでいこう、ということで3つ目の視点とさせていただいた。最後の4つ目は、「あらゆる力を結集する」とした。市民、地域、企業や学校、NPOの様々な人達と連携して取り組んでいきたい。ソーシャルキャピタルが高いことは見附の宝でもあり、それをさらに伸ばしていく。加えて、デジタル技術を活用し、市役所の職員力を上げてしっかり束ねていく。

「総合計画の体系」を再掲しているが、図のように4つの視点が横で束ねるような形。そして、みつけの将来像に合わせた4つの基本目標を掲げて、それぞれの取り組みである基本施策、主要施策などを掲げた。

5ページ目からは、主要施策の項目のみを挙げたもの。1つ目の基本目標1には「活力とにぎわいあふれるまちづくり」を持ってきた。まちや産業の元気を大切にし、その中でも基本施策（1）については、人口減少対策をしっかりと進めていきたいという思いもあり、移住施策や関係人口づくりを一番はじめに掲げた。それから（2）については、人を呼び込むためには働くところが大事。農業も商工業も稼げるといったことを大事にしながら、人材確保や産業界の連携、企業誘致の環境・体制を整える、戦略的な誘致活動を進める。そういったところを盛り込ませていただいた。

そして、（３）では宅地の確保、駅周辺も含めた拠点エリアの魅力づくり。公共交通は、今もコミュニティワゴンなど様々な交通手段があるが、新たな交通手段に民間事業者の力を借りられないか、といったことも含めて様々なことを考えていく。これはこどもの通学、高齢者の移動手段も含めて考えている。花と緑などの景観や空間づくりも継続していく。それから（４）あらゆる力を結集した地域の魅力づくりは、少し特徴的だと思っている。コミュニティや市民活動など、団体間の連携や一体感を持って取り組むことでより効果が発揮できるのではないか、という意図で掲げさせていただいた。これは、ふれあい懇談会の中でも意見をいただいたものと思っている。

続いて、6ページ目からは基本目標2「未来を担う人を育むまちづくり」として、こども子育て若者施策を掲げさせていただいた。基本施策（１）は、子育て環境づくりということで、働きながら育てられるよう負担軽減などをより一層進めていかなければならないし、これは「見附市こども計画」の中でも定められた「声の把握」にも力を入れていきたい趣旨。（２）は学校教育の観点で、「見附の未来も見据えた豊かな人間性と社会性の育成」など、最近で特に大事なものとして4番目に「教職員がこどもと向き合う時間の確保」も掲げさせていただいた。（３）の学びの環境づくりでは、「充実した学びの教育環境の整備」において、学校再編やそれに合わせた学校環境にしっかりと対応していくことを掲げたところ。（４）は今回新しいもので、若者に選ばれるまちづくりとして、こどもや若者にとっての魅力づくりなどを掲げた。来年度実施予定の大型遊具や、若者が活躍できるようなスポーツなどを含む。特に「市内高校の魅力づくり」については、11/11（火）に見附高校と包括連携協定を締結する予定であり、そういった取り組みをしっかり進めていきたい趣旨。

次の7ページ目は基本目標3「安心していきいき暮らせるまちづくり」で、健康や防災など、市民の福祉と安心を確保するという趣旨。基本施策（１）には災害対応を掲げ、自助・共助・公助の対応力をもっと強化しなければならないという思いがある。また、地震や水害のほか、雪対策については今後「持続可能」がこれから大事な1つのキーワードになってくると思う。暑さ対策や原子力災害についても施策に挙げた。（２）は、特に空き家対策やインフラ維持などを意識して記載している。それから、（３）健やかに暮らし続けられる地域づくりということで、これは4つの視点にも掲げた「市民の誰一人取り残さない」というところを意識した。命の大切さや地域医療、高齢者、認知症、そして障がいなど複合的な課題を含めて意識した中身になっている。その中で、障がいを持つ方や認知症の方たちと共生社会を実現していくといったワードを入れている。また、地球環境問題についても（４）に挙げさせていただいた。

最後の基本目標4は「未来に向けた持続可能な市政運営」として、市役所での取り組みになる部分をまとめたもの。基本施策（１）では、私自身大事にしてきた市民に寄り添うこと、意見交換やデジタル技術活用などを施策に入れ込んだ。（２）は組織と職員力の強化と効率化ということで、これまでの総合計画では定員管理の動きを強調していたが、より効率化かつ効果的に力を発揮できる組織体制の構築や、職員個々の力を伸ばす、ワークライフバランスを考慮する、といったところを具体的に記載させてもらった。また、デジタル技術や外部からの人材も取り入れる形で、組織力の向上や業務の効率化にも繋げていかなければならないことも記載した。（３）は財政体質の改

善ということ、歳入歳出など、議会でも盛んに答弁させていただいている、公共施設の最適化をしっかり進めていきたい。魅力の維持・向上と財政体質の改善の両立に、しっかり取り組んでいかなければならないことをここに入れ込んだ。

各指標は別紙に記載していないため、ホームページに掲載した素案の全編を見ていただきたい。

報道資料に戻って 2 ページ目、策定経緯と今後について。11/ 4 の審議会では素案をお示しして、より多くの意見をいただくためにもう 1 回、12/25（木）に総合審議会を開催する。そこでご意見をいただき、必要な修正をしっかりと反映していく。そして、1 月にパブリックコメントを実施した後、最終的には 3 月中旬の第 6 回の総合審議会において最後の答申をいただく。年度内には策定し、来年度から本計画に基づいて、しっかり市政運営を進めていく。

2．質疑応答

質：新潟日報

・パティオにいがたの指定管理候補者に市内企業が選定されたとのことで、指定管理者が変わることで、施設内のレストランや物販などの改修も予定されているのか。

答：市長

・見直しや改修はあると思うが、今後調整していく。飲食のスペースは変わると思う。

質：見附新聞

・指定管理の施設改修に関連して、指定管理者側と市側での費用負担はどうなるか。

答：市長

・パティオにおいて、現在進めている大型遊具の整備は市の負担。それ以外は原則、指定管理者側で負担と考えている。関連して、予定しているメグカフェのオープンカフェ化の改修は、市側の負担で来年度予算に計上し、今後の議会で提案できないかと考えている。基本的に、いま挙げたもの以外は、指定管理者に負担いただくものと理解している。

質：新潟日報

・総合計画素案がまとまったということで、市長としてはどんな思いを素案に反映させたか。本計画をもとに、これからどんな形でまちづくりを進めていきたいか。

答：市長

・「４つの視点」と「みつけの将来像」に、自分の思いが表れていると思う。将来像には、しっかりと一体感を持って連携して取り組むことで、もっと魅力が広がるのではないかという思いを持っている。魅力に関しては、市の発信力がまだ足りないという意見を、ふれあい懇談会などでもいただいていた。現役世代、若者子育て世代、こどもたちに引き続き住んでもらう、あるいは戻ってきてもらう、住みたいと思ってもらうため、魅力の創造にしっかりと取り組むことが一番大事と思っている。そして合わせて、高齢者の皆さんをはじめ誰一人取り残さないまちにしていくこと、スマートウエルネスや健幸のまちづくりを引き続き活かしていくこと、みんなで作り上げていくことも重要視している。それらを 4 つの視点に掲げた上で、個々の施策を検討し、まとめさせていただいたところ。今後、私は選挙を迎えるが、市民の負託を得られれば、本計画を実行する責任は私自身にあると思っている。計画には具体的な部分もあれ

ば、もっと詰めていかなければならない部分もあると思うが、その詰めを含めて職員とともに責任をもって１つ１つ実行していくことが大事だと思っている。

質：新潟日報

・今回の策定にあたって、ふれあい懇談会を開き、さまざまなジャンルで意見が寄せられたと思うが、市民の直接の声を大切にし、その点を市長も意識して反映させていったという理解で良いか。

答：市長

・総合計画については、計５回の「みらいを語るふれあい懇談会」を開催させていただいたが、市民の声を聞くという点では、これまでのふれあい懇談会での意見も踏まえて、計画づくりを進めている。関連して、すでに着手している学校再編は、まさに地域でのふれあい懇談会がきっかけになっている。また、総合計画の中でいうと、やはり市がもっと発信すべき、魅力をつくってほしい、子育て支援が大事だ、という声が多かったという認識でいる。また、地域・団体の繋がりや一体感、連携という部分はとても印象に残っていて、今回の素案に反映させてもらえたと思っている。

質：見附新聞

・総合計画で設定する指標に関して、一概に比較はできないが、具体的な数字が示されている指標の数が第５次では 24 ほどで、今回は 15 ほどになっていた。今後策定する総合戦略の中でも、第５次では KPI が 124 ほどあったと思うが、市長はどう考えているか。

答：市長

・現在の私の見解として、総合計画や総合戦略には、指標が多すぎると思っていた。特に総合戦略ではアウトプット的な指標が多く、事業をすればそのまま結果につながるような形で、目標としてはどうなのだろう、と常々思っていた。アウトカム的な指標として表すにはどうしたらよいか、少し数を絞ってでもそういった指標にするべきではないかと考え、職員と議論をさせていただいたところ。結果として、私が掲げている「暮らし満足 No.1」も踏まえて、一番大事にすべきは市民の思いではないかと考え、アンケート結果に委ねる形が多くなった。そういった観点で議論や見直しをさせていただき、結果的に数が少なくなったものと思っている。先日の審議会でご指摘を受けて、こういった考えで指標設定をとりまとめた、ということを次の審議会で説明させていただこうと思っている。そして、もっとこういった指標を、といった意見が審議会の中で出てくれば、また検討させていただきたいと思う。

質：見附新聞

・総合計画の策定が完了した段階で、総合戦略も付随してくると思うが、そこでの項目についても同じような考え方か。

答：市長

・今回示したものとは少し変わってくると思う。今後、基本施策の達成度を図る指標に紐づく指標を設定し、進捗を管理していく予定だが、これまでよりも指標を減らしたり、新たに導入したりすることもあるかもしれない。一概には言えないが、少なくともアウトプット的な指標はやめたいという思いはある。

質：読売新聞

・主要施策のところで、何点か見出しだけではイメージできなかった項目がある。まず、基本目標 3 での「暑さ対策」は、具体的に今後どういったものか。

答：市長

・地球温暖化もあり、対応の必要が顕著となった部分が出てきた。具体的には、冷房を備えた一時的な避難施設「クーリングシェルター」に民間企業と連携して取り組んだり、指定避難所として活用が想定される施設の空調設備の整備を進めたり、といった内容。

質：読売新聞

・体育館の空調整備なども含むか。

答：市長

・体育館は学校の教育環境にも関係するし、避難所にもなる。今後しっかりと前向きに検討・対応していかなければならない、という思いを持っている。

質：読売新聞

・同じく基本目標 3 での「危険な空き家」とは、具体的にどういった空き家を指すか。

答：市長

・現在、基本的には「特定空家」を指しており、市が所有者に対して助言・指導などを行うことが大事。助言・指導などを通じて、管理不全な危険な空き家や、その一歩手前の空き家の解消に取り組んでいく。また、この主要施策では空き家バンク事業として、いわゆる使える空き家の活用についても触れさせていただいているところ。

質：読売新聞

・基本目標 4 での「デジタル技術を活用した市民サービスの向上」についても、具体的に教えていただきたい。

答：市長

・今までの事例としては「書かない窓口」がある。この他はまだ具体的に記載していないが、本計画で方針として掲げて、今後もデジタル活用を考えていきたいという思いを記載させていただいた。

質：新潟日報

・柏崎刈羽原発 1 号機、2 号機の廃炉に向けて検討がされているということで、市長はこういった方針に対してどのように考えているか。廃炉の検討を評価するか、しないかも含めて教えていただきたい。

答：市長

・1 号機、2 号機の廃炉によってすべての安全が確保できるということではないが、リスク低減の一歩としては評価できるのではないか、と考えている。

質：新潟日報

・合わせて、柏崎刈羽原発が稼働できることを前提として地元に 1,000 億円規模の資金が拠出されるということで、除雪の体制の強化などに活用すると思うが、市長としてどう受け止めたか。

答：市長

・見附市は UPZ 圏内に入っており、柏崎刈羽原発でつくられた電力がほとんど都心に流れているという状況で、安全対策に使えるようなお金を出していただくということについては、これだけですべてを評価する訳ではないが、一定の評価をさせていただきたいと思っている。

質：新潟日報

・今後、どういう使い方をするか。市民の安全対策や避難といったところにしっかりと使っていただけるか。

答：市長

・使い道を含めて、今後の状況を注視していければと考えている。

質：新潟日報

・関連してもう 1 点、県民意識調査の分析結果が出るということで、市長としては結果をどのように活用していきたいか、あるいは参考にしていきたいか。

答：市長

・すでに出ている中間報告の結果概要を見ても、県民全体の思いは、市として想定したものと大きな違いがあったようには思っていない。心配する声や「やはり原発は必要ではないか」「さまざまな支援策がもっと必要だ」という声など、年代や性別もまた違うというところも興味深かったし、本当にさまざまな意見があることが明らかになったと思っている。今後、知事に要望する機会もあるため、ここでの声も踏まえて、伝えるべきことはしっかり伝えていきたいと考えている。

質：新潟日報

・中間報告はすでに出たが、今後まとまる調査結果、特に見附市分のデータについて、どのように分析したり、市長の意見に取り入れたりしていきたいか。

答：市長

・見附市分はこれからなので詳しい言及は避けたいと思うが、その結果もよく見させていただく。先ほど申し上げたとおり、今後の国や県に対する要望にしっかりと反映させていければと思っている。

質：見附新聞

・先ほど、中間報告は想定していたとおりといった見解が示されたが、意見はさまざまだ、ということを指すと理解した。中間報告に関して県の資料からは、見附在住の回答者が 57 名、見附に通勤または通学している回答者が 28 名とのこと。もれ聞くところによれば、すでに見附市分の生のデータが届いているとのことだが、そういう事実はあるか。

答：市長

・データは県から今後まもなく公表されるということなので、公表される結果も踏まえて、市としての考えをまとめて、分析をして、今後の要望活動などにつなげていければと思っている。

質：見附新聞

・もし県が市町村別の結果を概要だけ示して細かいものを公表しなかった場合に、例えば、市として見附市の状況はこうでした、と示すことがあっても良いと思う。現時点で、どのように考えているか。

答：市長

・私自身としては、見附市分の集計結果について公表すべき、と県に対して申し上げている。そのような形で公表していただけると思っている。

質：見附新聞

・近々、知事が原発の現地を視察し、UPZ の首長側からの要望を受けて、会談をするとの報道がされている。ここで改めて知事に面会を求めている目的についてお尋ねしたい。

答：市長

・知事に面会をお願いしているのは事実。県民意識調査の結果も出てきており、知事は最終的な判断をしようといったことを言われている。その前に、UPZ 圏内の首長で揃って、自治体の思いを改めて伝えたい。そんな思いで今調整させていただいている。

質：見附新聞

・それは県民意識調査の結果が出た後か。首長たちがその結果を理解した上で知事に会う、ということなのか。県民意識調査の結果の前あるいは後など、といったことについてはどうか。

答：市長

・日程調整についてはさまざまな都合もあると思い、何とも言えないが、少なくとも中間報告においてある程度の方向性は出ているものと思っている。もちろん、結果が出た後に要望ができれば一番良いように思うが、結果が出たから要望するわけではないため、その辺りのタイミングは今後の調整次第と理解している。

質：見附新聞

・先日、西中学校卒業生の 40 歳が、これまた 1 つの節目として、有志による同窓会を行っていた。出席は 30 名ほどで、一番遠くから足を運んだ方は広島の女性自衛官とのことだった。この年代は、ちょうど「30 歳の大同窓会」の一番初めにあたる。話を聞いてみると「30 歳のときは自分の希望とか夢とかをいろいろ持っていた。40 歳になったら、いろんな節目で困り事がでてきた。こどもの中学卒業や高校入学などがあり、次は親の退職や介護などの時期になってくる。40 歳は、いろんなことを考える上で非常に大きな節目になってくる」とのことだった。市では令和 2 年度ごろまで、一定程度の人数での同期会に助成をしていたと思う。今回の西中の方たちも市からのバックアップなど調べたが結局なく、すべて自腹で行ったとのこと。「困り事が出てきたときに、やっぱり周りの同期も同じ悩みを持っている」「お互い支え合えるようになるといいよね」といった話があった。30 歳の大同窓会も結構だと思うが、移住定住という視点で考え、40 歳も 1 つの節目としてあってもいいように感じた。市長はどう考えるか。ちょうど 30 歳の大同窓会のスタートの年代であったということからすると、何かいろんな意味合いを持っているように感じる。

答：市長

・やはり、見附出身者がいろいろと見附に集まる場があることで、戻らなくても関係人口として市とつながったり貢献したりしてもらうことにつながる。このような思いは、今回の総合計画の素案の中にも入っているように思う。つながりを持ち続けるためにどうしていくかということは、今後考えていければと思っている。